

V 試験研究発表題名

令和6年度 試験研究発表題名一覧

番号. 著者名. タイトル. 誌名, 掲載号: ページ

1. 鷹尾元、岡田康彦、高橋與明、壁谷大介、村上亘、高橋正義、齋藤英樹、宮本和樹、櫃間岳、宇都木景子（茨城県林業技術センター）、前川直人（茨城県林業技術センター）、小野澤郁佳（福岡県農林業総合試験場）、檜崎康二（福岡県農林業総合試験場）、桑野泰光（福岡県農林業総合試験場）、伊藤尚輝（福岡県農林業総合試験場）。意思決定支援技術を自治体に届ける－研究成果の橋渡しに向けた試行錯誤－。日本森林学会大会講演要旨集、136:109（A-19）
2. 鷹尾元。特別講演 放棄された民有人工林はどこにある？どこから手を付ける？どうする？－市町村の意思決定を支援するツールの開発を目指して－。関東森林学会大会講演要旨集、14:1（特別講演）
3. 軽部正彦。2. 主題解説 ②木材の利活用。シンポジウム「地球環境に配慮した建築構造」資料集、:29-39
4. 軽部正彦、森保宏（名古屋大学）、木村麗（建材試験センター）／辻聖晃（大阪電気通信大学）、軽部正彦、佐々木健友（大嘉産業）。2.1 ニーズを実現するための選択肢／付7 期限付き建築物のメリットを実現するための工夫。期限付き建築物設計指針（日本建築学会、177 頁）、:12-17 / :148-153
5. 浦野忠久。森林総合研究所関西支所令和6年度公開講演会「快適な春につなげる森林づくり－花粉症対策技術開発の現在－」開催報告。森林総合研究所関西支所研究情報、153:1
6. 浦野忠久、砂村栄力、長谷川美恵子（大和化学工業（株））。クビアカツヤカミキリ被害材および幼虫接種枝に対するサビマダラオオホソカタムシ放飼試験。日本応用動物昆虫学会大会講演要旨集、69:A-08
7. 細田育広。降雨出水時の渓流水における細菌叢組成の経時変動。水文・水資源学会研究発表会要旨集（2024）、PS-1-36
8. 阿部俊夫、久保田多余子、野口正二（国際農研）、細田育広。融雪期の水流出に対する伐採影響の長期的変化－釜淵森林理水試験地の事例－。日本森林学会大会講演要旨集、136:81（S3-4）
9. 阿部俊夫、久保田多余子、野口正二（国際農林水産業研究センター）、細田育広。山地森林流域からの融雪流出と伐採の影響－釜淵森林理水試験地の長期観測から明らかとなったこと－。水利科学、401:93-114
10. 細田育広。基盤研究1ウ k2: 森林水文モニタリング－竜ノ口山森林理水試験地における2023年の概要－。森林総合研究所関西支所年報（令和6年版）、65:46-47
11. 細田育広。渓流水細菌叢組成変動に基づく竜ノ口山南谷における出水過程の検討。日本森林学会大会講演要旨集、136:256（PJ-9）
12. 齊藤哲、山下直子、北川涼、鈴木秀典。広葉樹のポテンシャルな資源価値及び生産コストの推定。北方森林学会大会研究発表プログラム、73:O-7
13. 山下直子。広葉樹林を「一山いくら」ではなく「一本いくら」の価値で評価する。日本森林学会大会講演要旨集、136:91（S10-6）
14. 山下直子。多様な広葉樹を未来に繋ぐ。季刊森林総研、68:18
15. 山下直子、飛田博順、奥田史郎、小笠真由美、吉川章（滋賀県林業普及センター）、満井千鶴人（滋賀県林業普及センター）、松田修（九州大学）、小川健一（岡山県生物科学研究所）。母樹へのグルタチオン施用が種子の品質に与える影響。「優良種苗のよりよい育成・利用に向けて」、第5期中長期計画成果30（林木育種-9）、:6-7

16. 飛田博順、上村章、山下直子、奥田史郎、原山尚徳、小川健一（岡山県生物科学研究所）。植栽時のみ・植栽前1ヶ月のみのグルタチオン施用試験例。「優良種苗のよりよい育成・利用に向けて」、第5期中長期計画成果30（林木育種-9）、:76-77
17. 奥田史郎、山下直子、松田修（九州大学）、飛田博順。スギコンテナ育苗時の酸化型グルタチオン施用の効果。「優良種苗のよりよい育成・利用に向けて」、第5期中長期計画成果30（林木育種-9）、:46
18. TORIYAMA Jumpei（鳥山淳平）、HASHIMOTO Shoji（橋本昌司）、NAKAO Katsuhiko（中尾勝洋）、NISHIZONO Tomohiro（西園朋広）、UCHIYAMA Kentaro（内山憲太郎）、ARAKI G. Masatake（荒木眞岳）、HIRATA Yasumasa（平田泰雅）。Assessing climate change impacts on Japanese cedar plantations: Mitigation and adaptation measures in shrinking scenarios（スギ人工林への気候変動の影響：縮小シナリオにおける緩和策と適応策）。IUFRO World Congress 2024、T5.22
19. 中尾勝洋。気候変動と森林－地球温暖化に伴う森林変化と将来。図説日本の森林（朝倉書店、216頁）、:34
20. YAMADA Yusuke（山田祐亮）、GOMI Takashi（五味高志・名古屋大学）、SUZUKI Hidenori（鈴木秀典）、OHASHI Haruka（大橋春香）、KANOMATA Hidesato（鹿又秀聡）、NAKAO Katsuhiko（中尾勝洋）、HOSODA Kazuo（細田和夫）、NISHIZONO Tomohiro（西園朋広）、YAMAURA Yuichi（山浦悠一）。Balancing Ecology and Economics: Exploring the Benefits of Thinning in Japanese Cypress Plantations（生態系保全と経済の両立：ヒノキ人工林間伐の便益評価）。IUFRO 2024 XXVI World Congress、Book of Abstracts、:1246（T1.19）
21. 経隆悠、村上亘、中尾勝洋。気候変動が斜面崩壊の発生危険性に及ぼす影響の評価。日本地すべり学会研究発表会講演集、63:P-23
22. 阿部真、倉本恵生、中尾勝洋、稲垣善之、瀧誠志郎。目視観測に基づくスギの雄花量と林分環境。日本森林学会大会講演要旨集、136:246（PI-1）
23. TSUNETAKA Haruka（経隆悠）、MURAKAMI Wataru（村上亘）、NAKAO Katsuhiko（中尾勝洋）、Mtibaa Slim（ムティバアスリム・元森林総研PD）。Evaluation of the impact of climate change on rainfall for potential landslide triggering in Japan（気候変動が斜面崩壊誘発危険降雨に及ぼす影響）。Earth Surface Processes and Landforms、50（1）:e6050
24. 経隆悠、村上亘、中尾勝洋。気候変動が斜面崩壊発生危険降雨に及ぼす影響。日本森林学会大会講演要旨集、136:153（J-7）
25. TORIYAMA Jumpei（鳥山淳平）、HASHIMOTO Shoji（橋本昌司）、NAKAO Katsuhiko（中尾勝洋）、SAITOH M. Taku（斎藤琢・岐阜大学）、NISHIZONO Tomohiro（西園朋広）、UCHIYAMA Kentaro（内山憲太郎）、ARAKI G. Masatake（荒木眞岳）、MURAKAMI Wataru（村上亘）、HIRATA Yasumasa（平田泰雅）。Management strategies for shrinking and aging tree plantations are constrained by the synergies and trade-offs between carbon sequestration and other forest ecosystem services（縮小し高齢化する人工林の管理戦略は炭素固定と他の生態系サービスのシナジーとトレードオフにより決まる）。Journal of Environmental Management、373:123762
26. 内山憲太郎、伊原徳子、中尾勝洋、鳥山淳平、橋本昌司、津村義彦（筑波大学）。スギの気候適応遺伝変異と将来気候下での影響予測。日本森林学会大会講演要旨集、136:223（PF-8）
27. 頼承筠（名古屋大学）、三須直也（名古屋大学）、玉木一郎（岐阜大学）、中尾勝洋、鳥丸猛（三重大学）、内山憲太郎、戸丸信弘（名古屋大学）。ブナの遺伝的多様性、集団構造およびデモグラフィの歴史。日本森林学会大会講演要旨集、136:142（F-13）

28. Cheng-Yun Lai (賴承筠・名古屋大学)、MISU Naoya (三須直也・名古屋大学)、TAMAKI Ichiro (玉木一郎・岐阜県森林アカデミー)、NAKAO Katsuhiko (中尾勝洋)、TORIMARU Takeshi (鳥丸猛・三重大学)、UCHIYAMA Kentaro (内山憲太郎)、TOMARU Nobuhiro (戸丸信弘・名古屋大学). Genetic diversity, population structure and demographic history in *Fagus crenata* (ブナの遺伝的多様性、集団構造、集団動態について). IUFRO World Congress 2024、T3.8
29. NAKAO Katsuhiko (中尾勝洋)、TSUNETAKA Haruka (経隆悠)、MURAKAMI Wataru (村上亘). Adaptation strategies timeline for conservation and sustainable use of forest resources under uncertainty climate change. (不確実な気候変動下における森林資源の保全と持続可能な利用のための適応戦略タイムライン). IUFRO World Congress 2024、T5.35
30. 中尾勝洋. 航空レーザーデータを活用した高精度森林資源情報について. 応用森林学会大会公開シンポジウム要旨集、75:4
31. HIRATA Yasumasa (平田泰雅)、TORIYAMA Junpei (鳥山淳平)、UJINO-IHARA Tokuko (伊原徳子)、NAKAO Katsuhiko (中尾勝洋)、MURAKAMI Wataru (村上亘)、TSUNETAKA Haruka (経隆悠)、NISHIZONO Tomohiro (西園朋広)、HASHIMOTO Shoji (橋本昌司)、UCHIYAMA Kentaro (内山憲太郎)、MORI Hideki (森英樹). Chapter 6 Projection of Climate Change Impacts and Evaluation of Adaptation Options for Forestry (第6章 気候変動の影響予測と林業への適応策の評価). Climate Change Impacts and Adaptation Strategies in Japan - Integrated Research toward Climate Resilient Society - (Springer、359頁)、:75-91
32. 壁谷大介、中尾勝洋. 機械学習に向けた航空レーザー測量データに基づく樹冠高推定方法の検討. 日本森林学会大会講演要旨集、136:220 (PE-57)
33. 倉本恵生、阿部真、中尾勝洋、稲垣善之、瀧誠志郎、横山敏孝 (NPO 花粉情報協会)、村山貢司 (NPO 花粉情報協会)、斎藤央嗣 (神奈川県自然環境保全センター)、室紀行 (埼玉県寄居林業事務所). スギ雄花芽調査データからの東京都のスギ花粉飛散数の予測と検証. 日本花粉学会大会講演要旨集、65:O-22
34. 中尾勝洋、倉本恵生、阿部真. スギ着花量データを用いた推定スギ雄花数のマッピング. 日本花粉学会大会講演要旨集、65:P-03
35. 中尾勝洋、壁谷大介. 地域におけるスギ樹高成長予測に基づくゾーニング. 日本森林学会大会講演要旨集、136:82 (S4-2)
36. UCHIYAMA Kentaro (内山憲太郎)、UJINO-IHARA Tokuko (伊原徳子)、NAKAO Katsuhiko (中尾勝洋)、TORIYAMA Junpei (鳥山淳平)、HASHIMOTO Shoji (橋本昌司)、TSUMURA Yoshihiko (津村義彦・筑波大学). Climate-associated genetic variation and projected genetic offsets for *Cryptomeria japonica* D. Don under future climate scenarios (スギの気候関連遺伝変異と将来気候下での遺伝的オフセットの予測). Evolutionary Applications、2025;18:e70077
37. 種子田春彦 (東京大学)、小笠真由美、矢崎健一、岩本宏次郎、宮沢良行 (九州大学)、杉浦大輔 (名古屋大学)、古舘旦陽 (東京大学)、久本洋子 (東京大学)、後藤晋 (東京大学). 寒冷地の常緑針葉樹における環境応答. 日本植物学会大会研究発表記録、88:1aSL03
38. 高橋玄 (千葉県農林総合研究センター)、小笠真由美、三木直子 (岡山大学). イヌマキにおけるしおれ点と電解質漏出率の関係. 日本森林学会大会講演要旨集、136:234 (PG-14)
39. 小笠真由美、山下直子、三木直子 (岡山大学). アベマキとコナラにおける萌芽枝の発消長と生理生態的特性. 樹木医学会大会要旨集、29:55 (P-19)

40. 矢崎健一、花岡創（静大）、山岸松平、小笠真由美、種子田春彦（東大）、福田陽子. 短波近赤外反射スペクトルおよびひずみゲージを用いた本部水ポテンシャルの推定. 日本木材学会大会研究発表要旨集、75:A20-01-1115
41. 小笠真由美、山下直子、飛田博順. 元肥の溶出タイプと量がスギコンテナ苗の成長に与える影響. 「優良種苗のよりよい育成・利用に向けて」、第5期中長期計画成果30（林木育種-9）、:28-29
42. 小笠真由美、山下直子、藤井栄（徳島県立農林水産総合技術支援センター）、飛田博順. 振とう/接触刺激がスギコンテナ苗の成長に与える影響. 「優良種苗のよりよい育成・利用に向けて」、第5期中長期計画成果30（林木育種-9）、:56-57
43. 種子田春彦（東京大学）、小笠真由美、矢崎健一、清水文一（東洋大学）. 亜高山帯で生きる常緑針葉樹の越冬戦略. 日本森林学会大会講演要旨集、136:85（S6-3）
44. 山中聡、山浦悠一、北川涼、山田祐亮、高山範理. 森林の審美的価値に林齢と林相が与える影響. 日本森林学会大会講演要旨集、136:94（T1-10）
45. 北川涼、山浦悠一、山下直子、齊藤哲. 広葉樹の原木価格を基準にした森林の価値に及ぼす樹種の多様性の影響. 日本森林学会大会講演要旨集、136:205（PD-57）
46. 辰巳晋一（京都大学）、北原文章、小林勇太（東京農工大学）、入谷亮介（理化学研究所）、北川涼、森章（東京大学）、西園朋広、山浦悠一、細田和男. NFI データに基づく全国スケールの森林成長予測. 日本森林学会大会講演要旨集、136:124（D-2）
47. KOBAYASHI Keito（小林慧人）、SAKATA Yuzu（坂田ゆず・秋田県大、横浜国大）、TSUTSUMI Tadaaki（塘忠顕・福島大学）、OSAWA Naoya（大澤直哉・京都大学、摂南大学）. The thrips observed at the bamboo flowers（タケササ開花地で見られたアザミウマ類）. Jpn. J. Environ. Entomol. Zool.（Japanese Journal of Environmental Entomology and Zoology）、35（3）:51-55
48. 小林慧人、富松裕（山形大）、蒔田明史（秋田県立大）. タケササ一斉開花研究の現在地 Part 2：特に北海道での2023年一斉開花に注目して. 日本生態学会大会講演要旨、72:S12
49. 小林慧人. タケ・ササ類の広域一斉開花現象：現地踏査からわかってきたこと. 日本生態学会大会講演要旨、72:S12-1
50. 小林慧人. 日本のタケ類とその生態的特性. 日本森林学会大会講演要旨集、136:88（S9-1）
51. 久本洋子（東京大学）、綱本良啓（道総研）、小林慧人、福島慶太郎（福島大学）、鈴木重雄（駒澤大学）、小林剛（香川大学）. 日本各地で一斉開花中のタケ類ハチクの遺伝構造. 日本森林学会大会講演要旨集、136:143（F-15）
52. 小林剛（香大・農）、鈴木重雄（駒大・文）、久本洋子（東大院・農）、小林慧人、和田譲二（緑と水の連絡会議）. 石見銀山の遺跡集落に侵入したハチク林の開花と今後の管理への提言. 日本生態学会中国四国地区会大会講演要旨、67:EO-06
53. 鈴木重雄（駒澤大学）、小林剛（香川大学）、小林慧人、久本洋子（東京大学）、福島慶太郎（福島大学）、和田譲二（緑と水の連絡会議）. 石見銀山石銀集落跡におけるハチク開花の経過. 竹林景観ネットワーク研究集会講演要旨集、33:3
54. 小林慧人、西山典秀（国立遺伝学研究所）、杉本恵里子（栃木県林業センター）、柏木治次（富士竹類植物園）、若山太郎（ワカヤマファーム）、久本洋子（東京大学）. 「三百年計画、竹の開花年限に関する実験」の過去から現在まで：実生起源のモウソウチクにおける長期植栽試験の実態. 森林総合研究所研究報告、23（4）:135-151
55. 小林慧人. 日本の竹の生態特性と研究の方向性に関する一考. BIOSTORY、41:16-20

56. SAKATA Yuzu (坂田ゆず・秋田県立大学)、HIROTA K Shun (廣田峻・大阪公立大学)、MATSUO Ayumi (松尾あゆみ・東北大学)、KOBAYASHI Keito (小林慧人)、NAKAHAMA Naoyuki (中濱直之・兵庫県立大学)、SUYAMA Yoshihisa (陶山佳久・東北大学). Contrasting patterns of genetic structure and population demography in two *Dicraeus* species feeding on bamboo flowers in Japan (日本のタケの花を食べる *Dicraeus* 属 2 種にみられた遺伝的構造と個体群動態の対照的なパターン). Biological Journal of the Linnean Society, 143 (2):blad171、<https://doi.org/10.1093/biolinnean/blad171>
57. 小林慧人、竹重龍一 (京都大学)、柴田昌三 (京都大学). 開花竹林の段階的な変化に関する分類方法の検討. 日本森林学会誌、106 (8):257-262
58. 小林慧人、西山典秀 (国立遺伝学研究所)、柏木治次 (エコパレ、富士竹類植物園)、久本洋子 (東京大学). 一回繁殖型植物タケにおける開花結実までの年数解明にむけて：実生から育てられた各地のタケのデータベース構築の取り組み. 竹林景観ネットワーク研究集会講演要旨集、34:2
59. 小林慧人. 竹林の開花現象と開花後の管理. 造林時報、226:13-17
60. 野口麻穂子、星崎和彦 (秋田県立大学)、松下通也、杉浦大樹 (秋田県立大学)、八木橋勉、齋藤智之、板橋朋洋 (秋田県立大学)、太田和秀 (秋田県立大学)、柴田鏡江、星野大介、正木隆、大住克博 (元森林総合研究所)、高橋和規、鈴木和次郎 (元森林総合研究所). 奥羽山系のブナ帯落葉広葉樹老齢林における地上部現存量の 26 年間の変化. 東北森林科学大会講演要旨集、29: テーマ別セッション No.2
61. HASHIMOTO Shoji (橋本昌司)、MORI Taiki (森大喜)、SAKATA Tadashi (阪田匡司)、HASHIMOTO Toru (橋本徹)、MORISHITA Tomoaki (森下智陽)、SHIMIZU Takanori (清水貴範)、KOMINAMI Yuji (小南裕志)、MIYAMA Takafumi (深山貴文)、ISHIZUKA Shigehiro (石塚成宏)、YAMASHITA Naoyuki (山下尚之)、OKAMOTO Toru (岡本透)、TAKANASHI Satoru (高梨聡)、INAGAKI Yoshiyuki (稲垣善之). Nationwide monitoring of forest soil methane and carbon dioxide fluxes in Japan (森林土壌メタンおよび二酸化炭素フラックスの全国モニタリング). Japan Geoscience Union Meeting 2024 (日本地球惑星科学連合 2024 年大会)、BCG04-04
62. SHICHI Koji (志知幸治)、IKEDA Shigeto (池田重人)、OKAMOTO Toru (岡本透)、KATSUTA Nagayoshi (勝田長貴・岐阜大学)、URABE Atsushi (卜部厚志・新潟大学). Vegetation response to climate change since the last glacial period in the coastal area of the Sea of Japan in central Japan (中部地方の日本海側地域における最終氷期の気候変動に対する植生の応答). XV International Palynological Congress XI International Organisation of Palaeobotany Conference Abstract Book、:235 (P-060)
63. 岡本透. 写真にみる木曽路の山やまの変化 (その 2). 森林総合研究所関西支所研究情報、154:2-3
64. 池田重人 (元森林総研職員)、志知幸治、岡本透、林竜馬 (琵琶湖博物館)、芳賀和樹 (法政大学). 森吉山麓の花粉記録にみる中世以降の秋田スギの衰退. 日本森林学会誌、106 (7):206-213
65. 梅村光俊、岡本透、鳥居厚志 (元森林総研職員). ササの地上部・地下部器官から抽出した植物ケイ酸体の粒径分布の特徴. 日本森林学会大会講演要旨集、136:247 (PI-2)
66. 岡本透、太田陽子 (森林総研非常勤職員)、八巻一成. 長野県開田高原における過去 100 年の草地面積の変化. 日本地理学会春季学術大会発表要旨集 (2025)、:293 (P034)
67. 川西あゆみ (森林総研非常勤職員)、古澤仁美、酒井佳美、石塚成宏、今矢明宏、相澤州平、三浦覚、大貫靖浩、田中永晴、小林政広、志知幸治、橋本昌司、岡本透、溝口岳男. 施業が枯死木を介して土壌炭素蓄積に与える影響の解析. 日本森林学会大会講演要旨集、136:247 (PI-5)

68. 森大喜、橋本昌司、阪田匡司、橋本徹、森下智陽、石塚成宏、伊藤優子、山下尚之、清水貴範、小南裕志、深山貴文、岡本透、高梨聡、稲垣善之. 森林土壌におけるメタンフラックスデータベース構築に向けた展望. 日本森林学会大会講演要旨集、136:151 (I-13)
69. 岡本透. 歴史資料による過去の一斉開花の探索からササ類の開花周期を考える. 日本生態学会大会講演要旨、72:S12-3
70. 岡本透. 古写真に見る大正初期の高知の山の風景－Wilsonの写真と高知での足取り－. 四国の森を知る、44:2-3
71. 須賀丈 (長野県環境保全研)、岡本透、富樫均 (地久学舎). 霧ヶ峰の過去数千年の植生と人間活動との関わり. 諏訪湖研究連絡会 (仮称) 要旨集、:43
72. 佐藤大地 (名古屋大)、平野恭弘 (名古屋大)、新田響平 (秋田県林業研究研修センター)、岡本透、谷川東子 (名古屋大). 25年間のスギ林土壌の酸緩衝の変化～伝統林業地秋田と各地スギ林の比較～. 日本森林学会大会講演要旨集、136:248 (PI-7)
73. ITO Eriko (伊藤江利子)、Bora TITH (カンボジア森林局)、Borin TO (カンボジア森林局)、NAGAKURA Junko (長倉淳子). Physicochemical soil properties following selective cutting of large-diameter trees in a lowland dry evergreen forest in Cambodia (カンボジアの低地乾燥常緑林における大径木択伐後の土壌理化学性). JARQ、58 (4):215-232
74. IIDA Shin'ichi (飯田真一)、SHIMIZU Takanori (清水貴範)、TAMAI Koji (玉井幸治)、KABEYA Naoki (壁谷直記)、SHIMIZU Akira (清水晃)、ARAKI Makoto (荒木誠)、OHNUKI Yasuhiro (大貫靖浩)、ITO Eriko (伊藤江利子)、TORIYAMA Jumpei (鳥山淳平)、TANAKA Kenzo (田中憲蔵・国際農林水産業研究センター)、KUBOTA Tayoko (久保田多余子)、YAMANAKA Tsutomu (山中勤)、Sophal Chann (カンボジア野生生物研究所)、Delphis F Levia (アメリカデラウェア大学). Leaf phenology of overstory trees governs evapotranspiration in a dry deciduous forest in Cambodia (上層木の葉の植物季節によって制御されるカンボジア乾燥落葉林の蒸発散量). Japan Geoscience Union Meeting 2024 (日本地球惑星科学連合 2024 年大会)、AHW18-P12
75. 飯田真一、清水貴範、玉井幸治、壁谷直記、清水晃、荒木誠、大貫靖浩、鳥山淳平、伊藤江利子、久保田多余子、田中憲蔵 (国際農林水産業研究センター)、山中勤 (筑波大学)、Sophal Chann (カンボジア野生生物研究所)、Delphis F. Levia (アメリカデラウェア大学). 土壌の乾燥がカンボジア乾燥落葉林の蒸散量に及ぼす影響. 日本水文科学会学術大会講演予稿集 (2024)、P3
76. 長倉淳子、古澤仁美、中下留美子、伊藤江利子、橋本徹. 連年施肥を受けたウダイカンバ・トドマツ林における葉の炭素・窒素安定同位体比の経時変化. 関東森林学会大会講演要旨集、14:17 (立地1)
77. 細川奈々枝、稲垣善之、伊藤江利子、釣田竜也、木田仁廣、眞中卓也、大谷達也、古澤仁美. 高知県香美地域においてスギ成長に影響する立地要因. 日本森林学会大会講演要旨集、136:151 (I-14)
78. 清水貴範、伊藤江利子、壁谷直記、飯田真一、宮沢良行 (九州大学)、田中憲蔵 (JIRCAS)、植山雅仁 (大阪公立大)、玉井幸治、大貫靖浩、清水晃. 劣化が進行しつつある熱帯乾燥常緑林での CO₂ 収支: 劣化以前とどう変わった?. 日本森林学会大会講演要旨集、136:155 (J-17)
79. 伊藤江利子、稲垣善之、木田仁廣、中尾勝洋、古澤仁美、釣田竜也、眞中卓也、細川奈々枝. 西南日本におけるスギ成長低下: 地質による方位依存性の違い. 日本生態学会大会講演要旨、72:P0-141
80. 伊藤江利子、大橋伸太、三浦覚、篠宮佳樹、相浦英春、中島春樹. 富山県の林齢が異なるコナラ林における面移行係数の特徴. 日本森林学会大会講演要旨集、136:178 (PT5-4)

81. 長倉淳子、古澤仁美、中下留美子、伊藤江利子、橋本徹. 連年施肥を受けたウダイカンバ・トドマツ林における葉の炭素・窒素安定同位体比の経時変化. 関東森林研究、76:97-100
82. DANNOURA Masako (檀浦正子・京都大学)、TAKANASHI Satoru (高梨聡)、KAMAKURA Mai (鎌倉真依・龍谷大学)、Wang Shitephen (京都大学)、TANABE Tomoko (田邊智子・京都大学)、FUJII Rei (藤井黎・京都大学)、MOCHIDOME Takumi (持留匠・京都大学)、Sumonta Kumar Paul (京都大学)、SCHAEFER Holger (シェーファ・ホルガクリスチアン)、KOSUGI Yoshiko (小杉緑子・京都大学)、Epron Daniel (京都大学). Phloem transport of tall tree and its diurnal variations (高木の師部輸送とその日変化). EGU General Assembly 2024、EGU24-5098、DOI:10.5194/egusphere-egu24-5098
83. 平田晶子、小南裕志、深山貴文、高梨聡、吉藤奈津子. Impacts of mass tree mortality caused by pine wilt disease on regional forest carbon cycle (マツ枯れによる樹木の大量枯死が地域スケールの炭素循環に与える影響). AsiaFlux Conference 2024、:44
84. 芝日菜子 (福井県立大学)、江上泰広 (愛知工業大学)、檀浦正子 (京都大学)、高梨聡、塩野克宏 (福井県立大学). 2次元酸素イメージングによりみえた湿害を受けたオオムギの地上部の成長と根の伸長・根圏酸化力の関係. 日本作物学会講演会要旨集、258:3-14
85. 芝日菜子 (福井県立大学)、江上泰広 (愛知工業大学)、檀浦正子 (京都大学)、高梨聡、塩野克宏 (福井県立大学). 非破壊酸素イメージング技術により見えてきたオオムギの湿害発生過程における成長と根圏酸化の関連性. 日本育種学会講演会 (2024 年秋季大会)、146:413
86. 辻祥子 (京大)、増井昇 (静岡県大)、深山貴文、奥村智憲 (大阪府立環境農水総研)、高梨聡、谷晃 (静岡県大). Response of isoprene emission and the xanthophyll cycle to changes in light intensity (光強度の変化に対するイソプレン放出とキサントフィルサイクルの反応). 日本森林学会大会講演要旨集、136:232 (PG-7)
87. 辻祥子 (京大)、増井昇 (静岡県大)、深山貴文、奥村智憲 (大阪府立環境農水総研)、高梨聡、谷晃 (静岡県大). Relationship between BVOCs emission and heat dissipation of the xanthophyll cycle in woody plants (木本植物における BVOC 放出とキサントフィルサイクルの熱放散の関係). 日本生態学会大会講演要旨、72:P0-016
88. 辻祥子 (京都大学)、増井昇 (静岡県立大学)、深山貴文、奥村智憲 (大阪府立環境農林水産総合研究所)、高梨聡、谷晃 (静岡県立大学). 光強度の違いに応じたコナラとボブラの葉におけるイソプレン放出速度の日変化. 日本植物生理学会年会要旨集、66:1aE09
89. 和田龍一 (帝京科学大)、深山貴文、小南裕志、高梨聡、堅田元喜 (キャノン)、谷晃 (静岡県大)、米村正一郎 (広島大)、植山雅仁 (大阪公大)、高木健太郎 (北大)、松見豊 (名大)、梶野瑞王 (気象研)、中野隆志 (富士山研)、高橋善幸 (国環研). 常緑針葉樹林におけるオゾンフラックス長期観測と気孔からのオゾン吸収量の推定. 大気環境学会年会、65:3B1100
90. 辻祥子 (京大)、増井昇 (静岡県大)、深山貴文、奥村智憲 (大阪府立環境農水総研)、高梨聡、谷晃 (静岡県大). BVOC emission and the rate constants for photodamage to PSII and PSII repair in diverse woody plants (多様な木本植物における BVOC 放出と PSII の光損傷および PSII 修復の速度定数). Plant molecular phenology and climate feedbacks mediated by BVOCs (2024)、:34 (P-6)

91. Jiao, Linjie (Xishuangbanna Tropical Botanical Gardens)、Liu, Yaqi (Xishuangbanna Tropical Botanical Gardens)、Zhang, Jing (Xishuangbanna Tropical Botanical Gardens)、Zheng, Huixu (Xishuangbanna Tropical Botanical Gardens)、Palingamoorthy, Gnanamoorthy (Xishuangbanna Tropical Botanical Gardens)、KOSUGI Yoshiko (小杉緑子・京都大学)、TAKANASHI Satoru (高梨聡)、Lion, Marryanna (FRIM)、SAKABE Ayaka (坂部綾香・京都大学)、Zhang, Yiping (Chinese Academy of Sciences)、Song, Qing-Hai (Chinese Academy of Sciences). Rainfall seasonality and long-term CO₂ exchange of a rainforest in the northern periphery area of Tropical Asia (熱帯アジア北部周辺地域の熱帯雨林における降雨の季節性と長期 CO₂ 交換量). American Geophysical Union Fall Meeting 2024 (AGU24)、B24E-02
92. 芝日菜子 (福井県立大学)、江上泰広 (愛知工業大学)、檀浦正子 (京都大学)、高梨聡、塩野克宏 (福井県立大学). オオムギの湿害発生過程における地上部・地下部の成長と根圏酸化の関係. 根研究集会要旨集、59:17 (P10)
93. SAITO Takuya (齊藤拓也・国立環境研究所)、SAKABE Ayaka (坂部綾香・京都大学)、TAKANASHI Satoru (高梨聡). Measuring isoprene emissions over a temperate deciduous forest using a true eddy accumulation system (真の渦集積法を用いた温帯落葉樹林上のイソプレン放出量測定). iCACGP-IGAC Conference 2024、B116
94. 久保田多余子、香川聡、壁谷直記、高梨聡、安田幸生、清水貴範、飯田真一、岩上翔、小田智基、鈴木春花 (森林総研 PD). 年輪から復元した蒸散量と長期水文気象データから計算した蒸発散量との比較. 日本森林学会大会講演要旨集、136:266 (PJ-49)
95. 高梨聡. 京都府南部広葉樹二次林における降雨中および降雨後の二酸化炭素交換特性. 日本生態学会大会講演要旨、72:P0-107
96. 岡本隆、古市剛久 (森林総研 PD)、渡壁卓磨、大澤光、村上亘、黒川潮. ベトナムにおける治山施設の現状と日本の治山技術の適用可能性. 日本地すべり学会研究発表会講演集、63:310-311
97. 渡壁卓磨、松四雄騎 (京都大)、小玉芳敬 (鳥取大)、松崎浩之 (東京大). 穿入蛇行河川の地形発達を制御する要因の相互作用. 日本地形学連合発表要旨集 (2024)、5 (1):9 (O04)
98. 小暮哲也 (京都大)、渡壁卓磨、近藤有史 (京都大)、松四雄騎 (京都大). 令和6年能登半島地震時隆起海岸の構成岩石の物理・力学的性質. 日本地形学連合発表要旨集 (2024)、5 (1):40 (P13)
99. 渡壁卓磨、大澤光. 大規模崩壊地の近年の拡大に及ぼす地質構造の影響. 日本地すべり学会研究発表会講演集、63:P-21
100. 岡本隆、村上亘、古市剛久、道中哲也、渡壁卓磨、大澤光、鈴木秀典、山口智、宗岡寛子、黒川潮. ベトナム北部山岳地の土地利用に基づく治山計画の検討. 日本森林学会大会講演要旨集、136:263 (PJ-37)
101. FURUICHI Takahisa (古市剛久)、WATAKABE Takuma (渡壁卓磨)、OSAWA Hikaru (大澤光)、OKAMOTO Takashi (岡本隆)、Phuong Vu Tan (ベトナム森林科学アカデミー)、Linh Nguyen Thuy My (ベトナム森林科学アカデミー)、Hang Le Thi Thu (ベトナム森林科学アカデミー)、Doan Thanh Tung (ベトナム森林科学アカデミー). Uncovering sediment sources from spatial patterns of fluvial sediment transport in a mountain catchment in northern Vietnam (ベトナム北部山地流域における河川土砂運搬の空間パターンを用いた土砂起源地の特定). Japan Geoscience Union Meeting 2024 (日本地球惑星科学連合2024年大会)、HGG02-P04

102. FURUICHI Takahisa (古市剛久)、WATAKABE Takuma (渡壁卓磨)、OSAWA Hikaru (大澤光)、OKAMOTO Takashi (岡本隆)、MURAKAMI Wataru (村上亘)、Phuong Vu Tan (ベトナム森林科学アカデミー)、Linh Nguyen Thuy My (ベトナム森林科学アカデミー)、Hang Le Thi Thu (ベトナム森林科学アカデミー)、Tung Doan Thanh (ベトナム農業農村開発省林業局)、Truong Nguyen Van (ベトナム森林科学アカデミー). Spatial patterns of sediment discharge in a mountain catchment in northern Vietnam: What the data tell us about the impact of land-use along historical and contemporary contexts (ベトナム北部山地流域における土砂流出の空間分布：土地利用の歴史と現状による影響). American Geophysical Union Annual Meeting 2024、B53A-1722
103. 山下尚之、大貫靖浩、新田響平 (秋田県林業研究研修センター)、渡壁卓磨. デジタルソイルマッピングによる土層厚の空間変動評価－全国スケールから小集水域スケールまで－. 日本土壌肥科学会大会講演要旨集、70:85 (P5-1-9)
104. 山下尚之、大貫靖浩、渡壁卓磨. Efficient sampling approach for digital soil mapping in mountainous forests of Japan (日本の山地森林におけるデジタルソイルマッピングのための効率的なサンプリング手法). IUFR0 World Congress 2024、:3374 (T5.9)
105. 渡壁卓磨、山下尚之、大貫靖浩、鈴木孝典 (茨城県林業技術センター). 地形の異なる丘陵地において火山灰が土層発達と土壌特性に及ぼす影響. 日本森林学会大会講演要旨集、136:150 (I-12)
106. 松澤真 (京都大学防災研究所)、渡壁卓磨、佐藤昌人 (防災科学技術研究所). 令和6年能登半島地震により発生した大久保崩壊の地形・地質的素因. 京都大学防災研究所研究発表講演会 (令和6年度)、D207
107. 松澤真 (京都大学防災研究所)、下村博之 (パスコ)、花川和宏 (アサノ大成基礎エンジニアリング)、末武晋一 (日本工営)、木村一成 (ケイジオ)、渡壁卓磨、佐藤昌人 (防災科学技術研究所). 令和6年能登半島地震により発生した崩壊の地質的特徴. 能登半島地震災害調査団報告書 (令和6年)、:37-44
108. 松澤真 (京都大学防災研究所)、渡壁卓磨、佐藤昌人 (防災科学技術研究所)、下村博之 (パスコ)、花川和宏 (アサノ大成基礎エンジニアリング). 令和6年能登半島地震により発生した大久保崩壊の地形・地質的特徴. 能登半島地震災害調査団報告書 (令和6年)、:71-77
109. SCHAEFER Holger (シェーファ・ホルガクリスチアン). h-schaefer/hyphascope: Pre-release (v0.1.0-alpha) (h-schaefer/hyphascope: プレリリース (v0.1.0-alpha)). Zenodo、DOI:10.5281/zenodo.10815832
110. SCHAEFER Holger (シェーファ・ホルガクリスチアン). Design files for a low-cost high-resolution imaging device for hyphae in soil (0.1.0) [Data set] (土壌中菌糸用の低コスト・高解像度撮影装置のデザインファイル (0.1.0) [データセット]). Zenodo、DOI:10.5281/zenodo.10689905
111. SCHAEFER Holger (シェーファ・ホルガクリスチアン). High-resolution images from a low-cost imaging device for hyphae in soil (1.0.0) [Data set] (土壌中菌糸用の低コスト撮影装置によって得られた高解像度画像 (0.1.0) [データセット]). Zenodo、DOI:10.5281/zenodo.10730414
112. SCHAEFER Holger (シェーファ・ホルガクリスチアン). Hyphascope: Do-it-yourself assembly and application of an imaging device for hyphae in soil (ハイファスコープ：土壌中菌糸用の撮影装置のDIY作製と使用方法). protocols.io. DOI: 10.17504/protocols.io.bp2l6xo3zlqe/v1
113. SCHAEFER Holger (シェーファ・ホルガクリスチアン). Assembly and application of a low-cost high-resolution imaging device for hyphae in soil (土壌中菌糸用の低コスト・高解像度撮影装置の作製と操作). PLoS ONE、20 (1):e0318083、DOI: 10.1371/journal.pone.0318083
114. 吉村真由美. Adaptation of stonefly (Plecoptera) life cycle to water temperatures-egg stage- (カワゲラの卵期間の水温への適応). International Congress of Entomology、27:20-1-06

115. 吉村真由美. 大台ヶ原に生息する溪流性底生動物群集の20年の変化. 日本陸水学会熊本大会講演要旨集、88:73
116. 吉村真由美. 老齢広葉樹林と人工針葉樹林内の溪流に生育する珪藻の比較. 日本生態学会大会講演要旨、72:P3-034
117. YOSHIMURA Mayumi (吉村真由美). Potential impacts of changing vegetation on benthic invertebrate assemblages in Odaigahara, Japan (大台ヶ原における溪流性底生動物群集の変化). *Journal of Insect Conservation*、28:345-358
118. 吉村真由美. 特集・国際昆虫学会議と昆虫学の最近の進歩、未来の昆虫学者へのメッセージ. *昆虫と自然*、59 (6):10-14
119. YOSHIMURA Mayumi (吉村真由美). Comparison of freshwater diatom assemblage between old-growth broad-leaved and planted coniferous forest basins in temperate region, Japan (老齢広葉樹林と人工針葉樹林内の溪流に生育する珪藻の比較). *Journal of Freshwater Ecology*、39 (1):2382446
120. 吉村真由美. Introduction of Plenary lectures by Dr. Juan C. Corley (基調講演を行うコーリー博士の研究紹介). *Program book of the XXVII International Congress of Entomology 2024*、27:P15
121. 東川航、吉村真由美. 赤トンボの生息地ネットワーク保全に向けて. *九州の森と林業*、148:2-4
122. 関伸一. トカラ列島で繁殖するイイジマムシクイ隔離集団の分布、生態、形態および遺伝的特性. *山階鳥類学雑誌*、56 (1):33-50
123. 関伸一. 「イイジマムシクイのトカラ列島集団」最後の報告. 日本鳥学会大会講演要旨集 (2024)、:92 (P1-32)
124. 関伸一. ホントウアカヒゲの不思議: 渡り鳥から琉球列島の中で種分化. 四学会合同沖縄大会講演要旨集 (2024)、:19 (S01)
125. 武山智博 (岡山理大)、岩見恭子 (山階鳥研)、富田直樹 (山階鳥研)、兵藤不二夫 (岡山大)、水田拓 (山階鳥研)、関伸一、小高信彦. 鳥類標本の新たな学術利用方法の検討ー羽の安定同位体分析. 四学会合同沖縄大会講演要旨集 (2024)、:30 (P-33)
126. 関伸一. モッタイナイからはじまったヤマガラ研究: 卵の数には地域差がある. 森林総合研究所関西支所研究情報、155:2-3
127. KANZAKI Natsumi (神崎菜摘)、FUJIMORI Yuta (藤森友太・明治大学). *Bursaphelenchus glaucae* n. sp. isolated from larval faeces of a longhorn beetle *Aeolesthes chrysothrix chrysothrix* (Bates) in its pupal chamber constructed in the dead wood of *Quercus glauca* Thunb. from Japan (アラカシ枯死材内に形成されたキマダラヤマカミキリ蛹室から分離された新種線虫、*Bursaphelenchus glaucae*). *Nematology*、26 (5):593-606
128. Vladimir V. Yushin (ロシア国立海洋研究所)、Lyubov A. Gliznutsa (ロシア国立海洋研究所)、KANZAKI Natsumi (神崎菜摘)、Alexander Ryss (ロシア科学アカデミー動物学研究所). *Sperm development and structure in Bursaphelenchus luxuriosae* (Nematoda: Aphelenchoidea: Aphelenchoididae) (タラノザイセンチュウ精子の構造と発生). *Nematology*、26 (5):519-530

129. TAKAHASHI Ayumi (高橋歩・明治大学)、FUJIMORI Yuta (藤森友太・明治大学)、KANZAKI Natsumi (神崎菜摘)、SHINYA Ryoji (新屋良治・明治大学)、EKINO Taisuke (浴野泰甫・明治大学). Evolution of modes of nutrient absorption in entomoparasitic nematodes of the order Tylenchida revealed by structural and phylogenetic analysis (微細構造と系統関係に基づく Tylenchida 類昆虫寄生線虫の栄養吸収モードの進化解析). *Nematology*, 26 (5):565-577
130. Mohammad AMIRI BONAB (イラン・Tarbiat Modares 大学)、Fateme BAZEGBI (イラン・Tarbiat Modares 大学)、Farshad GHARIBAZADEH (イラン・Tarbiat Modares 大学)、Mohammad Reza ATIGHI (イラン・Tarbiat Modares 大学)、KANZAKI Natsumi (神崎菜摘)、Robin M. GIBLIN-DAVIS (フロリダ大学)、Majid PEDRAM (イラン・Tarbiat Modares 大学). Description of *Paaronemoides siddiqii* n. gen., n. sp. (Tylenchomorpha, Paurodontidae), a morphological and molecular phylogenetic study (形態、系統解析に基づく、新属新種線虫 *Paaronemoides siddiqii* の記載). *Nematology*, 26 (6):607-620
131. KANZAKI Natsumi (神崎菜摘)、FUJIMORI Yuta (藤森友太・明治大)、EKINO Taisuke (浴野泰甫・明治大)、DEGAWA Yousuke (出川洋介・筑波大山岳科学センター). *Pristionchus seladoniae* n. sp. (Diplogastridae) isolated from a eusocial soil-dwelling bee, *Halictus (Seladonia) aerarius*, in Nagano, Japan (長野県で真社会性ハナバチ、アカガネコハナバチより検出された新種線虫、*Pristionchus seladoniae*). *Nematology*, 26 (6):621-645
132. 吉富恭果 (明治大・農)、神崎菜摘、新屋良治 (明治大・農). Environmental tolerance of *Bursaphelenchus tadamiensis* in tree sap flow. (樹液に生息する線虫 *Bursaphelenchus tadamiensis* の環境耐性). ヨーロッパ線虫学会大会講演要旨集、35: 発表番号 247
133. 神崎菜摘、藤森友太 (明治大・農). 京都市伏見区で採集されたオオハネカクシの便乗線虫. 日本線虫学会大会講演予稿集、31:15 (P-4)
134. 小栗成稀 (明治大・農)、浴野泰甫 (明治大・農)、神崎菜摘、新屋良治 (明治大・農). *Acrostichus* 属線虫における海浜環境への適応. 日本線虫学会大会講演予稿集、31:19 (PS-5)
135. 藤森友太 (明治大・農)、神崎菜摘、新屋良治 (明治大・農). サダエミナミヤスデにおける寄生性線虫の多様性. 日本線虫学会大会講演予稿集、31:24 (PS-15)
136. 市石宙 (明治大・農)、佐藤綾香 (明治大・農)、神崎菜摘、新屋良治 (明治大・農). ナメクジ病原性線虫 *Phasmarhabditis* spp. はナメクジに対して多様な病原性を示す細菌を保有する. 日本線虫学会大会講演予稿集、31:27 (O-3)
137. 山下達矢 (明治大・農)、奥津琉 (明治大・農)、武田奈々 (明治大・農)、神崎菜摘、新屋良治 (明治大・農). 極限環境に棲む胎生線虫 *Tokorhabditis tufae* の生活史の理解. 日本線虫学会大会講演予稿集、31:27 (O-4)
138. 吉富恭果 (明治大・農)、神崎菜摘、新屋良治 (明治大・農). 樹液に生息する線虫 *Bursaphelenchus tadamiensis* の環境耐性. 日本線虫学会大会講演予稿集、31:28 (O-6)
139. Matthias Herrmann (ドイツ・Max Planck 生物学研究所)、KANZAKI Natsumi (神崎菜摘)、Christian Weiler (ドイツ・Max Planck 生物学研究所)、Penghieng Theam (ドイツ・Max Planck 生物学研究所)、Christian Rödelsperger (ドイツ・Max Planck 生物学研究所)、Ralf Sommer (ドイツ・Max Planck 生物学研究所). Description of two new *Pristionchus* species from South Korea (2種の韓国産 *Pristionchus* 属線虫の新種記載). *Journal of Nematology*, 56:20240032, DOI: 10.2478/jofnem-2024-0032

140. KANZAKI Natsumi (神崎菜摘)、FUJIMORI Yuta (藤森友太・明治大学). Nematode isolation from *Creophilus maxillosus* (L.) (Staphilinidae) with a description of *Rhabditoides eutrophicola* n. sp. (Diplogastridae) and some notes on *Diplogastrellus gracilis* (Bütschli, 1876) Paramonov, 1952 (Diplogastridae) (オオハネカクシからの線虫分離: *Rhabditoides eutrophicola* の新種記載と *Diplogastrellus gracilis* に関する追加記載). *Nematology*, 26 (10):1127-1161, DOI: 10.1163/15685411-bja10360
141. FUJIMORI Yuta (藤森友太・明治大学)、KANZAKI Natsumi (神崎菜摘). A *Hammerschmidtella* species isolated from the hindgut of adult *Anthrachophora rusticola* Burmeister (Coleoptera: Scarabaeidae) (アカマダラハナムグリ成虫の後腸から分離された *Hammerschmidtella* 属寄生虫). *Nematology*, 26 (10):1195-1201, DOI: 10.1163/15685411-bja10365
142. 池田雄哉 (明治大学・農)、新屋良治 (明治大学・農)、神崎菜摘. Do viviparous nematodes have the tradeoff between progeny size and number? (胎生線虫に産仔数と卵サイズのトレードオフがあるのか?). The Joint Meeting of the Annual Meeting of the Society of Population Ecology and Taiwan-Japan Ecology Workshop 2024 in Okinawa Abstract, :79-80
143. HABE Shunya (波部俊也・京都工芸繊維大学)、MATSUYAMA Shigeru (松山茂・筑波大生命環境)、KANZAKI Natsumi (神崎菜摘)、HAMAGUCHI Keiko (濱口京子)、OZAKI Mamiko (尾崎まみこ・奈良女子大学)、AKINO Toshiharu (秋野順治・京都工芸繊維大学). Male-specific substances possibly contributing to nuptial flight of the Japanese carpenter ant *Camponotus japonicus* (Hymenoptera: Formicidae) (クロオオアリの結婚飛行に寄与する可能性のある雄特異的化学物质). *Journal of Chemical Ecology*, 50:884-893, DOI: 10.1007/s10886-024-01548-0
144. TANAKA Ryusei (田中龍聖・宮崎大学)、KANZAKI Natsumi (神崎菜摘)、Robin M. Giblin-Davis (フロリダ大学). Morphological and biological characters of the entomophilic stage of *Schistonchus pumilae* (Aphelenchoididae) with an update of its molecular profiles (*Schistonchus pumilae* 昆虫便乗態の形態的、生態的特性と分子プロファイルのアップデート). *Nematology*, 27 (1):37-48, DOI: 10.1163/15685411-bja10368
145. FUJIMORI Yuta (藤森友太・明治大学)、KANZAKI Natsumi (神崎菜摘)、SHINYA Ryoji (新屋良治・明治大学). The first record of hyperparasitism in mermithid nematode (シヘンチュウ類昆虫寄生線虫による重寄生の初記録). *Nematology*, 27 (1):65-72, DOI: 10.1163/15685411-bja10370
146. Soheila Rezaei (イラン・Tarbiat Modares University)、Ebrahim Pourjam (イラン・Tarbiat Modares University)、Mohammad Reza Atighi (イラン・Tarbiat Modares University)、KANZAKI Natsumi (神崎菜摘)、Robin M. Giblin-Davis (フロリダ大学)、Majid Pedram (イラン・Tarbiat Modares University). Description of *Deladenus hebetocaudatus* n. sp. (Rhabditida: Neotylenchidae) from northern Iran (イラン北部で分離された新種線虫, *Deladenus hebetocaudatus*). *Nematology*, 27 (2):157-165, DOI: 10.1163/15685411-bja10378
147. Zeinab Mirzaie Fouladvand (イラン・Tarbiat Modares University)、Mohammad Reza Atighi (イラン・Tarbiat Modares University)、Ebrahim Pourjam (イラン・Tarbiat Modares University)、KANZAKI Natsumi (神崎菜摘)、Robin M. Giblin-Davis (フロリダ大学)、Majid Pedram (イラン・Tarbiat Modares University). *Pauronemoides lorestanensis* n. sp. (Tylenchomorpha, Paurodontidae), from the rhizosphere of grasses in Lorestan province, western Iran (イラン、ロレスタン州の草地根圏土壌から分離された新種線虫, *Pauronemoides lorestanensis*). *Nematology*, 27 (2):191-200, DOI: 10.1163/15685411-bja10379

148. KANZAKI Natsumi (神崎菜摘)、Arne Fjellberg (ノルウェー・元 Lund University). Re-isolation of *Ektaphelenchus winteri* (Hooper, 1995) Heydari & Pedram, 2020 (Rhabditida: Aphelenchoididae) from *Xylodiplosis nigritarsis* (Diptera: Cecidomyiidae) in Norway (ノルウェーにおけるタマバエの一種、*Xylodiplosis nigritarsis* からの *Ektaphelenchus winteri* の再分離). *Nematology*, 27 (2):221-236, DOI: 10.1163/15685411-bja10384
149. 八代田千鶴、小坂井千夏 (農研機構)、荒木良太 (自然研). 錯誤捕獲の発生防止対策を考える. 日本哺乳類学会大会プログラム・講演要旨集 (2024)、:51 (F15)
150. 後藤光 (岐阜大学)、中条寧々 (岐阜大学)、川田うらら (岐阜大学)、水川真希 (屋久島自然保護官事務所)、竹中康進 (屋久島自然保護官事務所)、八代田千鶴、浅野玄 (岐阜大学)、鈴木正嗣 (岐阜大学). ヤクシカにおけるセメント質年輪法適用上の留意点. 日本哺乳類学会大会プログラム・講演要旨集 (2024)、:190 (P121)
151. 服部友香子、市原優、升屋勇人. 日本初記録となる *Hypsotheca* 属菌の未記載種について. 日本菌学会大会講演要旨集、68:50
152. 相川拓也、市原優、升屋勇人、中村克典. 寒冷地域のマツ枯死木からマツノザイセンチュウを効率的に検出するには?. 日本森林学会大会講演要旨集、136:166 (M-11)
153. 市原優、安藤裕萌、升屋勇人. 中国地方の低標高地におけるカラマツ植栽試験で発生した苗立枯に関与する菌類. 樹木医学研究、28 (3):154-155
154. 市原優、升屋勇人、田中作治 (和歌山県林業試験場)、坂口和昭 (和歌山県林業試験場). ヒサカキの枝葉枯れ症状の発生. 森林総合研究所研究報告、23 (3):93-95
155. 市原優. 樹木の病気に関わる菌類. 園芸春秋、664:2
156. 市原優. 樹病探訪～木の病気を探し歩いて～その1 スギ雄花の病気. 森林総合研究所関西支所研究情報、152:4
157. 市原優. 樹病探訪～木の病気を探し歩いて～その2 スギの様々な病気. 森林総合研究所関西支所研究情報、153:4
158. 市原優. 樹病探訪～木の病気を探し歩いて～その3 菌核菌の生態. 森林総合研究所関西支所研究情報、154:4
159. 市原優、升屋勇人、田中作治 (和歌山県林業試験場)、坂口和昭 (和歌山県林業試験場). ヒサカキ袈裟掛病 (新称) の発生生態と寄主範囲. 日本森林学会大会講演要旨集、136:168 (M-17)
160. 陶山大志 (島根中山間研セ)、市原優、安藤裕萌. コンテナ苗で発生したスギ赤枯病の病徴と発生地での治療事例. 日本森林学会大会講演要旨集、136:166 (M-12)
161. 服部友香子、市原優、安藤裕萌、升屋勇人. 主要造林樹種から分離された暗色枝枯病菌の再評価. 日本森林学会大会講演要旨集、136:167 (M-14)
162. 市原優、升屋勇人、小野谷邦江 (山口農林水産事務所)、田戸裕之 (山口県農林総合技術センター). 中国地方ヒノキ植栽地の苗枯死に関与する疫病. 樹木医学会大会要旨集、29:48 (P-12)
163. 服部友香子、升屋勇人、安藤裕萌、市原優. スギ・ヒノキ・カラマツ苗立枯病菌 *Fusarium oxysporum* の分類学的再評価. 樹木医学会大会要旨集、29:51 (P-15)
164. 升屋勇人、市原優、服部友香子. スギ苗根腐れ部位から検出される卵菌類. 樹木医学会大会要旨集、29:47 (P-11)

165. 安藤裕萌、陶山大志（島根県中山間地域研究センター）、市原優. スギコンテナ苗育成現場で発生した黒点枝枯病菌による胴・枝枯性被害. 樹木医学研究、28（3）:152-153
166. 山下聡、服部友香子、升屋勇人、服部力、鳥居正人、綾部慈子、市原優、安藤裕萌. スギ林における森林環境と樹木病害発生状況との関係：東北地方での一事例. 日本森林学会大会講演要旨集、136:167（M-16）
167. 松永孝治、市原優、岩泉正和、倉原雄二、久保田正裕、千吉良治. 熊本県におけるスギ雄花枯れの袋掛けによる防除事例. 日本森林学会大会講演要旨集、136:229（PF-31）
168. 升屋勇人、市原優、田端雅進. 病害（疫病）. 森林総合研究所第5期中長期計画成果23（森林産業-9）ウルシの健全な森を育て、持続的に良質な漆を生産する、:22
169. 田端雅進、安藤裕萌、升屋勇人、市原優、相川拓也、. 病害（胴枯病）. 森林総合研究所第5期中長期計画成果23（森林産業-9）ウルシの健全な森を育て、持続的に良質な漆を生産する、:24
170. 升屋勇人、服部友香子、安藤裕萌、市原優. スギ苗木病害の再評価. 日本森林学会大会講演要旨集、136:167（M-15）
171. HAMAGUCHI Keiko（濱口京子）、SATO Takashi（佐藤隆士・京都市）、KINOMURA Kyoichi（木野村恭一・岐阜市）. Factors influencing queen body size in queen-size dimorphic ant *Temnothorax spinosior*（女王に体サイズ二型のあるハリナガムネボソアリにおいて、女王の体サイズに影響を与える要因について）. International Congress of Entomology abstracts、27:P1024
172. 福田秀志（日福大）、石黒秀明（石黒樹木医事務所）、濱口京子. 三重県北勢地域に分布するカシノナガキクイムシ. 樹木医学会大会要旨集、29:37（P-1）
173. 福田秀志（日本福祉大学）、濱口京子. 知多半島のウバメガシ林を加害するカシノナガキクイムシー太平洋型は分布しているのか？－. 樹木医学研究、28（4）:208-209
174. 濱口京子、長谷川元洋（同志社大学）、佐藤大地（名古屋大学）、平野恭弘（名古屋大学）、小口理一（大阪公立大学）、松田陽介（三重大学）、谷川東子（名古屋大学）. 異なる林相間におけるトビムシの腸内真菌叢比較（予報）. 日本応用動物昆虫学会大会講演要旨集、69:PG-62
175. YAMAOKA Akira（山尾僚・京都大学生態学研センター）、MUKAI Hiromi（向井裕美）. Wax on the surface of *Phragmites australis* leaves provides enemy-free space for the aphid *Hyalopterus pruni*（ヨシの葉の表面のワックスはモモコフキアブラムシに敵のいない空間を提供する）. Biological Journal of the Linnean Society、blad135
176. MUKAI Hiromi（向井裕美）、TOKORO Masahiko（所雅彦）、KUSUMOTO Norihisa（楠本倫久）. Volatiles from commercial fungi act as chemical cues that influence the behavior of fungivorous pest insects（商用菌類からの揮発性化合物は化学的キューとして菌食性害虫の行動に影響を与える）. 39th Annual Meeting of the International Society of Chemical Ecology（Prague, Czechia, 14-18 July 2024）abstract book、:249（P-54）
177. MUKAI Hiromi（向井裕美）. The role of vibratory signals in the multimodal courtship displays of jewel bugs（キンカメムシの多様な求愛行動における振動信号の役割）. International Congress of Entomology（ICE2024）、27:20-2-02

178. YANAGISAWA Ryuhei (柳澤隆平・農業・食品産業技術総合研究機構)、TATSUTA Haruki (立田晴記・九州大学)、SEKINE Takayuki (関根孝幸・宮城県農業・園芸総合研究所)、OE Takaho (大江高穂・宮城県農業・園芸総合研究所)、MUKAI Hiromi (向井裕美)、UECHI Nami (上地奈美・農業・食品産業技術総合研究機構)、KOIKE Takuji (小池卓二・電気通信大学)、ONODERA Ryuichi (小野寺隆一・東北特殊鋼(株))、SUWA Ryuichi (諏訪竜一・琉球大学)、TAKANASHI Takuma (高梨琢磨)。Vibrations as a new tool for pest management - a review (害虫防除の新たなツールとしての振動：総説)。Entomologia Experimentalis et Applicata、172 (12):1116-1127
179. 向井裕美、北島博、北野隆也 (カモ井加工紙株式会社)、高橋誠 (カモ井加工紙株式会社)。菌床シイタケ栽培施設の多様な昆虫に対する捕虫紙色の効果。日本きのこ学会大会講演要旨集、27:105 (P24)
180. SUEYOSHI Masahiro (末吉昌宏)、KITAJIMA Hiroshi (北島博)、MUKAI Hiromi (向井裕美)、WATANABE Kyohei (渡辺恭平・神奈川県立生命の星・地球博物館)。Toward effective control of fungus gnat pests of the shiitake cultivations (シイタケ栽培のキノコバエ害虫の効果的な防除に向けて)。International Congress of Entomology (ICE2024) (国際昆虫学会議)、27:P0779
181. TAKANASHI Takuma (高梨琢磨)、KOBAYASHI Chisato (小林知里・東北大学)、MUKAI Hiromi (向井裕美)。Dual effect of vibrations for pest control of fungus gnats and for cultivation of shiitake mushroom (キノコバエ防除とシイタケ栽培における振動のダブル効果)。International Congress of Entomology、27:19-1-05
182. WATANABE Kyohei (渡辺恭平・神奈川県立生命の星・地球博物館)、MUKAI Hiromi (向井裕美)、SUEYOSHI Masahiro (末吉昌宏)。Review of the Ichneumonid Parasitoids of the Fungus Gnats Infesting Edible Fungi in Japan, with a New Species of *Orthocentrus* Gravenhorst, 1829 (日本の食用キノコ害虫キノコバエ類に寄生する寄生バチに関する総説と *Orthocentrus* の新種について)。Japanese Journal of Systematic Entomology、30 (2):182-195
183. 向井裕美。育志賞が繋いでくれた道。日本学術振興会育志賞受賞者寄稿文集、:40
184. 立田晴記 (九州大学)、柳澤隆平 (農業・食品産業技術総合研究機構)、関根崇行 (宮城県農業園芸総合研究所)、大江高穂 (宮城県農業園芸総合研究所)、向井裕美、上地奈美 (農業・食品産業技術総合研究機構)、小野寺隆一 (東北特殊鋼(株))、小池卓二 (電気通信大学)、諏訪竜一 (琉球大学)、高梨琢磨。農林業における振動を活用した害虫管理。JATAFF ジャーナル、12 (12):33-36
185. 向井裕美、河野雅史 (みのる産業株式会社)、陶山純 (みのる産業株式会社)、小野寺隆一 (東北特殊鋼株式会社)、高梨琢磨。振動による害虫抑制及び子実体発生促進への効果－施設栽培シイタケでの実証。日本応用動物昆虫学会大会講演要旨集、69:PG-11
186. 向井裕美。ナナホシキンカメムシはなぜ踊るのか：ユニークな求愛ダンスに隠された多様な振動シグナルとその機能。日本応用動物昆虫学会大会講演要旨集、69:W15-02
187. ODA Kimisato (小田龍聖)、YAMAKI Kazushige (八巻一成)、MIYAMOTO Asako (宮本麻子)、OTSUKA Keita (大塚啓太)、JINGU Shoma (神宮翔真)、HIRANO Yuichiro (平野悠一郎)、INOUE Mariko (井上真理子)、MATSUURA Toshiya (松浦俊也)、SAITO Kazuhiko (齋藤和彦)、TAKAYAMA Norimasa (高山範理)。A survey on interest in forests and frequency of visits among residents of the 23 wards of Tokyo (The Center of Tokyo)、Japan (東京23区民を対象とした森林への訪問・関心に関する調査)。Japan Geoscience Union Meeting 2024 (日本地球惑星科学連合2024年大会)、HCG19-02
188. 大塚啓太、新保奈穂美 (兵庫県立大学)、坂本優紀 (東京都立大学)、水内佑輔 (東京大学)、高山範理、宮本麻子、小田龍聖、神宮翔真、八巻一成。「自然への感情反応」による東京都民と森林レンタルサービス利用者の比較都市住民における潜在的な森林空間利用者の特性探索。人間・環境学会誌 (MERA)、53:63

189. JINGU Shoma (神宮翔真)、OGAWA Yui (小川結衣・国立環境研究所・筑波大学)、YAMAKI Kazushige (八巻一成)、MIYAMOTO Asako (宮本麻子)、TAKAYAMA Norimasa (高山範理). Social Media as a Lens for Citizen Science: Investigating Visitor Contributions in a Forest Recreational Area (森林空間利用施設に投稿されたソーシャルメディア写真を生物多様性保全のための市民科学に活用するための課題). Sustainability 2024, 16 (13):5804
190. 平野悠一郎、高山範理、小田龍聖、大塚啓太、神宮翔真、八巻一成. シンポジウム報告：日本森林学会大会企画シンポジウム「都市住民の森林への訪問をめぐる研究の可能性と課題」. 森林技術、990:24-27
191. 八巻一成. 森を守る仕組み－多岐にわたる法や制度. 図説日本の森林 (朝倉書店、216 頁)、182-183
192. 八巻一成. 本の紹介：山本伸幸編「森林と時間－森をめぐる地域の社会史」. 森林技術、991:36-37
193. 八巻一成. 生物多様性から生物文化多様性へ. 森林総合研究所関西支所研究情報、154:1
194. 八巻一成、柴崎茂光 (東京大学). 世界遺産における森林の文化的価値. 林業経済学会秋季大会プログラム・要旨集 (2024)、C3
195. 森田えみ、八巻一成、松原恵理、大塚啓太、長谷川澄 (筑波大)、高橋司 (筑波大)、堀大介 (筑波大)、道喜将太郎 (筑波大)、笹原信一郎 (筑波大)、松崎一葉 (筑波大)、柳沢正史 (筑波大)、神林崇 (筑波大). COVID-19 流行下における自然環境への訪問頻度の変化：SLEPT Study. 日本森林学会大会講演要旨集、136:116 (B-2)
196. 森田えみ、松原恵理、八巻一成、大塚啓太、伊香賀俊治 (慶応大)、長谷川澄 (筑波大)、高橋司 (筑波大)、堀大介 (筑波大)、道喜将太郎 (筑波大)、笹原信一郎 (筑波大)、松崎一葉 (筑波大)、柳沢正史 (筑波大)、神林崇 (筑波大). 勤労者における新型コロナウイルス (COVID-19) 罹患歴と寝室の木材使用量との関連：SLEPT Study. 日本木材学会大会研究発表要旨集、75:G19-P-08
197. 小田龍聖、八巻一成、宮本麻子、大塚啓太、神宮翔真、平野悠一郎、井上真理子、松浦俊也、斉藤和彦、高山範理. 東京 23 区民の森林への関心、訪問に関する調査報告. 日本森林学会大会講演要旨集、136:118 (B-10)
198. 齋藤和彦、田中邦宏、田中真哉、鷹尾元. 基盤研究 2 A k1: 収穫試験地における森林成長データの収集. 森林総合研究所関西支所年報 (令和 6 年版)、65:48-50
199. HAYAFUNE Masato (早船真智)、TACHIBANA Satoshi (立花敏・筑波大学). Construction and transfiguration of the raw material procurement system of woodchips in the Japanese pulp and paper industry (日本の紙・パルプ産業における木材チップ調達システムの構築と変容). Journal of Forest Research、29 (4):260-269
200. 早船真智. 第 5 章 紙・パルプ産業と地域持続性の懸隔－王子製紙山林部の展開と現場作業組織の相互連関. 森林と時間 森をめぐる地域の社会史 (新泉社、272 頁)、137-166
201. 早船真智. 森林と人の関係の継承について. 林業経済学会研究会 Box「『森林と時間』を読む－ライフコース分析の可能性－」、:14-15
202. 早船真智. 2000 年代の木材チップ輸入の概況. 木材工業、79 (11):455-456
203. 高橋正義、北原文章、鄭峻介、早船真智、大森聡 (筑波大院). 環境情報と空間解析によるヤナギ超短伐期施業の適地評価－千葉県印西市、宮崎県都農町のポテンシャルと課題－. 関東森林学会大会講演要旨集、14:6 (経営 7)

204. 小南裕志、平田晶子、酒井寿夫、江原誠、北原文章、森井拓哉、津山幾太郎、松井哲哉、石塚成宏、橋本昌司、西園朋広、山田祐亮、柳田高志、久保山裕史、早船真智、加用千裕（東京農工大）、小井土賢二、高田依里、外崎真理雄（森林総研非常勤職員）、古川拓哉、藤間剛. 高分解能炭素シミュレータを用いた森林伐採シナリオによる森林の変化推定. 日本森林学会大会講演要旨集、136:102（T6-1）
205. 高橋正義、北原文章、鄭峻介、早船真智、大森聡（筑波大学）. 環境情報と空間解析によるヤナギ超短伐期施業の適地評価－千葉県印西市、宮崎県都農町のポテンシャルと課題－. 関東森林研究、76:21-24

